



えが お

令和7年10月2日発行
第6号

都立城東特別支援学校長
秋本 友美

働き方改革の先にあるもの

校長 秋本 友美

「節目」を表す学校特有の言葉で「学期」があります。学校の特色を生かす一つとして、「前期・後期の二（学）期制」や、本校のような「三学期制」があります。先週実施した個別指導計画を用いた「前期：振り返り」「後期：学習の計画」では、面談を通して「家庭」と「学校」が同じ方向（共通の目標）や思いを共有できたことに感謝申し上げます。

さて、報道で御存知の方も多いと思いますが、「学習指導要領の改訂」に向けて、教育界では活発な議論が交わされています。（このことは別途お伝えします）その議論の過程において、密接に連動して切り離せないのが、「働き方改革」です。しかし・・・

①「働き方改革」という言葉だけが叫ばれ続け、一人歩きしていないか。

②「働き方改革」が本来、目指しているものは、何なのか。・・・立ち戻ってみます。

記憶に新しいところでは、以下のメッセージを御記憶の方も、いらっしやると思います。

文部科学大臣メッセージ

～子供たちのための学校の働き方改革 できることを直ちに、一緒に～

学校における働き方改革「元年」と言える2019年から約4年、皆様のご尽力のおかげで、教員勤務実態調査では在校等時間が減少しましたが、依然として長時間勤務の教師が多い実態も明らかになっています。この改革の目的は、働き方の改善により教師が学ぶ時間を確保し自らの授業を磨くこと等を通じて、子供たちにより良い教育を存分に行うことができるようにすることです。今後は、2024年度からの3年間を集中改革期間とし、政府全体として質の高い公教育の再生に向け、働き方改革、処遇改善、指導・運営体制の充実を一体的に進めていきますが、教師を取り巻く環境をより良いものとする事は待ったなしであるため、直ちにできることに、文部科学大臣としてメッセージをお伝えします。

2023.8.29

文部科学大臣メッセージ

2. 学校・教育委員会は、できることは直ちに実行を

働き方改革は国だけでは進みません。改めて、一人一人の教師の勤務時間管理及び健康管理、業務分担の見直し等の責任を有しているのは各校長でありサービスを監督する各教育委員会であるということ、すべての校長先生及び教育長の方々にご確認いただきたいとします。これまでの取組で効果の見られた好事例は相当蓄積されており、徹底した実行に移すべき時です。提言では、例えば、標準授業時数を大幅に上回っている教育課程編成の見直しをはじめ各主体において求められる対応が整理されておりますので、各学校の課題を踏まえ、今からできることは直ちに着手いただきますよう、お願いします。

目的：「働き方の改革により、教師が学ぶ時間を確保し、自らの授業を磨くことを通じて、子供たちによりよい教育を行うこと」です。つまり、「標準授業時数を大幅に上回っている教育課程編成の見直し」を始め、できることを直ちに実行していくことで創出した時間を、教え方改革〈教員が教材研究や授業準備に向かう時間等を確保する〉として投資する・循環させることまでが、本来の目的なのです。

4月からこの目的を全教職員が理解し、あらゆる視点で検証・整備しています。その具体の一例を裏面で紹介します。働き方改革が本来目指すのは、「教育の質の向上」。そのためへの時間創出「例：校務のDX化をはじめ、（業務削減等）できること」を継続すると共に、「城東の目指す生きる力」を付けるための方策と循環させて、検証していきます。

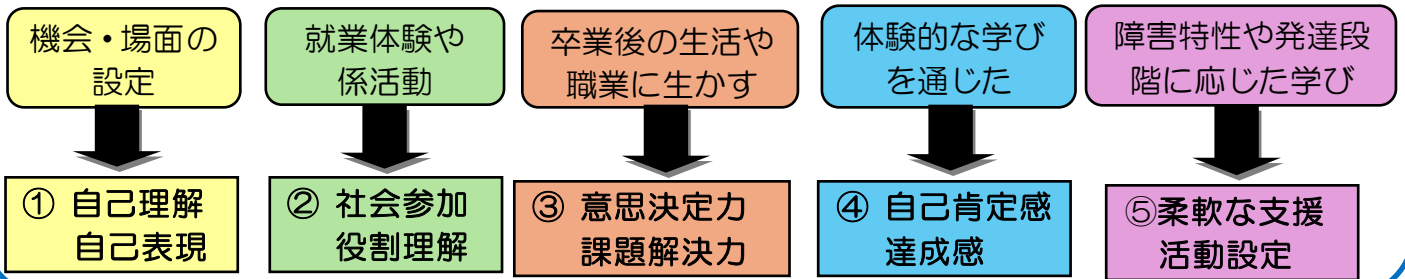
方針・具体は12月臨時保護者会で御説明いたします。ぜひ、御参加をお待ちしています。

現在の学びをさらに深める ～次年度教育課程の編成～

教育課程検討委員会コアチーム 主任教諭 白戸 友彬

教育課程検討委員会を中心に各教科会などの部署において、学校経営における重点テーマの1つである、次年度に向けて教育課程の再編成を行っています。学校教育法施行規則に定める標準授業時数に近付け、児童・生徒が「生きる力」を育むために、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」などの視点を大切にしています。

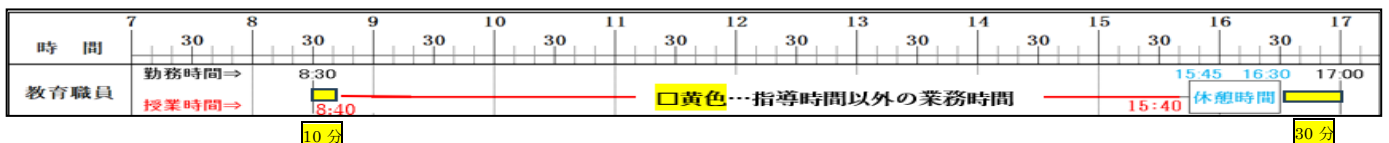
夏季休業期間には、全教員が所属している教科ごとのチーム【教科会】を中心に授業時数や時間割の組み方、学習内容の見直しを行いました。その中で①他の教科との関連において、教育効果が高まる「主体的・対話的・深い学び」を実現するためにはどのようなことができるか、②地域や社会の中でどのように生ずるのか、③高等部卒業後に必要とされる「生きる力」の3点について考えを深め、共通して大切にしたいことが見えてきました。



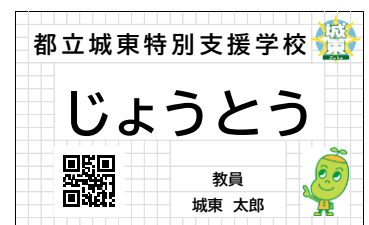
児童・生徒に向き合う時間を創る ～校務DX化に向けた取り組み～

校務DXコアチーム 主任教諭 猿渡 歩

本校では、児童・生徒の情報共有や授業準備を充実させるために、朝や放課後の時間（下図で示した黄色部分。授業・指導時間を除いた限られた時間）の有効活用を目指して、校務DX（デジタルトランスフォーメーション）化に向けた取り組みをしています。



- ① 2分でできる職員朝会 スプレッドシート(オンラインで情報共有できるシート)を開始
 - ・毎朝、児童・生徒の出席や授業について、情報共有する時間が増える。
 - ・全体周知事項を、日にち毎に事前入力して、提出物や会議等の詳細を確認することができる。
- ② 5秒でできるICT機器の貸出のスマート化の開始
 - ・紙面での申請からQRコードでの申請にすることで、より短時間でスムーズな貸出・返却ができる。
 - ・貸出者や貸出物など、ICT機器の管理が分かりやすい。
 - ・授業や会議等でICT機器の利用がよりしやすくなる。



少しでも児童・生徒の情報共有や授業準備の時間を多く設けることができるように、引き続き校務DX化に向けた取り組みを行なっていきます。

【えがお後記】今年度の学校経営計画において、経営における重点テーマを『「教え方・学び方・働き方の変換」～学校の魅力化～』と掲げ、「学習指導要領（標準授業時数）を踏まえた教育課程の再編」や「校務のDX化や効率化、平準化」など、様々な取組を校内ですすすめています。これには、分掌組織等における「コアメンバー」がリーダーシップを発揮し、関係分掌や学部など、連携して準備を着実に推進しています。今後も「目指す学校像」の実現に向け取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

副校長 富樫 忠